

——憲法改悪は、一応空振り——
新安保ガイドライン見直しは

『戦争の手引き』

◎憲法改悪をねらった「国会法改正案（改悪議連Ⅱ中山太郎会長）」は、国民の四五万五千二百名の反対署名等によって、今臨時国会では空振りに終わったようです。

世界一立派な平和憲法を、やすやすと改悪されたら、またたく間に日本は暗黒時代に逆戻りです。しかし、彼らは、来年の通常国会への再上程をねらっています。気をゆるめず、署名等の反対運動に、立ち上がりましょう。

◎とはいっても、憲法の実質的な改悪は、国会の審議もせず「新安保ガイドライン」という形で、現在、大幅に進行中です。

「新安保ガイドライン」というのは、米軍が朝鮮半島、中国、台湾から中東までの広範な地域で戦争を始めた時に、日本の自衛隊は勿論、民間の港湾や空港まで、米軍に自由に使用させ、いかに協力するかを決めた「戦争の手引き」なのです。つまり、日本全土が、米軍の最前線基地となるのです。

◎さらに、「有事立法（戦争になった時の法律）」の、法制化もねらっています。このように、水面下では、着々と「戦争」への準備がなされているのが、今の日本の現実なのです。

◎今が、日本国民の私たちにとって、戦争か平和かの歴史の分かれ目です。皆さん、今、私たちは何をなすべきでしょうか。後になって「しまった！」と思わないために…。

一九九七年十二月七日（日）第三七〇回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〇十五